

追手門学院大学

校友会会報



第66号

平成20年(2008年)12月25日

発行者 〒567-8502

炭木市西安威2-1-15

追手門学院大学校友会

会長 平野 昌雄

電話 072-643-6135

FAX 072-643-6099

©2007

編集責任 蟻柴 潤一

次期新役員候補者

推薦は四十三名

選挙管理委員長 石川 徹

去る十一月七日消印有効で校友会会員から郵送いただきました「新評議員推薦用紙」の封書数は五十六通でした。

十一月十五日(土)の午前十時から母校(將軍山会館)に於て立会人の監視のもと開票。

送達票の内、二票が、自分で自分を推薦と押印洩れがあり無効。有効数は五十四票分。内、重複十一票で被推薦者数は四十三票となりました。

今後の手続きは役員の候補者を全校友会会員に本会報第六十六号にて告知し異議申立ての手続きに入りま

期限は会報六十六号発行の日から二十日以内に選挙管理委員会へ到着するようにご投函下さい。

異議申立て期限を経過後評議員就任承諾書を送付、その承諾返送をもって評議員役員となります。

本会新役員改選に伴い、多数の推薦をいただきました。ありがとうございます。ご協力のほど厚くお礼申し上げます。



被推薦の新役員候補者一覧表

氏名	卒年・学学科	氏名	卒年・学学科
岡田 宏	(七十・経経)	古橋 忠男	(七六・経営)
奥村 啓二	(七十・経経)	美濃岡伸也	(七六・経営)
桑原 栄門	(七十・経経)	宮本 幸治	(七六・文英)
平野 昌雄	(七十・経経)	八木 彰彦	(七七・経経)
萬代 治	(七十・経経)	藤尾 正弘	(七七・経営)
大橋 陽一	(七一・経経)	川崎 昭一	(七七・文心)
小坂井俊夫	(七一・経経)	青木 敬	(七七・文社)
林田 隆行	(七一・文社)	井上 晶子	(七七・文社)
福井 教男	(七二・経経)	藻川 芳彦	(七七・文社)
佐々 進一	(七三・経経)	越智 英二	(七七・文英)
西崎 泰司	(七三・文東)	岡本 一美	(七八・経営)
永井 秀明	(七四・経営)	廣内 裕子	(七八・文英)
蟻柴 潤一	(七四・文社)	喜多 博	(七九・経営)
山口 人士	(七五・経経)	洲上 嘉彦	(八〇・経経)
下村 忠功	(七五・経営)	恒川 鈴子	(八〇・文心)
生川 紳一郎	(七五・経営)	渡辺 一則	(八一・文社)
賛田 肇	(七五・経営)	野出 靖宏	(八三・経経)
吉田 浩幸	(七五・文社)	大塚 高司	(八九・経営)
岡本 眞弘	(七六・経経)	高本 優一	(九一・経経)
高木 憲彦	(七六・経経)	鈴木 圭史	(九八・経営)
中井 隆	(七六・経営)	矢島 秀和	(〇三・文東)
森 嘉一	(七六・経経)	(以上四十三名・敬称略)	

総会開く

ホームカミング・デー

に合わせて開催している二〇〇八年度校友会総会が、大学祭中日の十一月三日、午前十一時より大学食堂三階において開催された。

定例より、二〇〇八年度事業報告、決算報告が、続いて二〇〇九年度事業計画案、予算案が審議され、いずれも原案通り可決承認された。

事業計画では、本年六月に竣工しました將軍山会館の効率的な運用などについて説明があった。



ホームカミング・デー 今年も盛大に開催



大学祭期間中に開催されるホームカミング・デーは今年も、中日の三日、大学食堂一階で開催された。

ホームカミング・デーは正午より始められ、在学生やOB、OGをはじめ教職員が集い、昨年を上回る五〇〇余名が参加した。

理事長、学長、校友会会長の挨拶に続き祝宴が始められアメリカ民謡研究会OBの「きたむらいづみ&フレンズ」によるミニコンサートが行われました。また、將軍山会館内では



現役ギター部の演奏会も開かれホームカミング・デーに花を添えた。

平野会長は「今年も例年にも増して多数の参加を得てうれしい限りです。来年も。もっと集まれるよう頑張りたい」と話している。



大学の

思い出

眠ってませんか？

將軍山会館が開館し、学院・大学歴史展示室が設けられました。

ここには追手門学院や大学に関する歴史資料が展示されていますが、更なる充実を図りたいと考えております。

皆様方のご家庭で眠っている大学や学院に関する史料がございましたらご協力をお願いいたします。

収集する史料は、教科書、配付プリント、ノート、クラブ活動記録、受験票、合格通知、制服、クラブのユニホーム、指定体操服、ゼミ旅行写真などです。ご寄贈いただいた資料は追手門学院大学の歴史を物語る大切な史料として末永く保存させていただきます。

よろしく願いいたします。

問い合わせ先

追手門学院大学 庶務課
〇七二一六四一一九六六八

学院創立一二〇周年式典で

六三〇〇人が祝う

創立一二〇周年記念事業事務局

追手門学院は創立一二〇周年を記念して大阪城ホールにて式典を開催し、ご来賓や在校生・卒業生ら約六三〇〇人が一二〇年の節目を祝いました。

オープニングは小・中・高・大学生による合同チャリディング部八十人によるシャープな演技で開幕し、続いて本大学のOBの北林さんが演出されたご祝儀舞(連獅子)が披露されました。



また、式典で大木理事長並びに鈴木学院長が『追手門ビジョン一二〇』をもとに「未来を創造していく子どもを教育するという社会的使命を果たす」、「卒業生から愛され社会から評価される学校となるよう努力したい」などと式辞が述べられました。

つづいて、館内の大画面には卒業生である作家の宮本輝氏、堺屋太一氏、キャスターの福岡功男氏、進藤晶子さんが在校生へのエールとして、「日本はこれから困難な時代。皆さんの力で幸せ大国にしてください。」と熱いメッセージが寄せられました。

舞台中央の大型画面では、一二〇周年DVD『未来は私たちの手に』と学院将来計画『追手門ビジョン一二〇』が上映されました。その後、学校出演とし



ては、両中・高、大学生一四〇人による吹奏楽団の演奏、中国武術(大学生、日本太鼓(小学生)、鼓隊(幼稚園)の演奏などが行われました。練習に練習をかさねた成果が十二分に発揮された素晴らしい舞台でありました。

この式典に際して、校友会より祝花を出して式典を祝いました。



校友会の皆様

「一二〇周年、一万円募金にご協力を！」

謹啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は追手門学院・大学に対して格別のご厚情にあずかり厚く御礼申し上げます。さて、創立一二〇周年記念事業総合募金につきましては、二〇〇五年一月から実施しておよそ三年が経過しようとしています。

これまでに卒業生及び卒業生の保護者・教職員・在学生・企業・団体などから多くのご芳志をいただいております。ここに皆様方のご厚情に対して感謝の意を表します。

大学では、卒業生の方が気軽に立ち寄りいただける同窓会館「將軍山会館」が六月に竣工いたしました。この將軍山会館には、オープンカフェや学院の歴史展示物などのコーナーがあり、卒業生とその家族が集い、在校生・保護者・教職員との触れ合いの場になっております。

また学院では十一月七日大阪城ホールにて六千三百人の関係者が参加された「創立一二〇周年記念式典」をはじめとして、数多くの催し物を開催しています。毎年開催されています「ホームカミングデー」には、多くの卒業生が参加されております。今年も大学祭期間中の十一月三日(月)文化の日に開催されました。

ぜひ、年に一度といわず何度でも母校にお帰りのいただきたいと思っております。大学では新工号館が二〇〇九年夏に竣工予定となっております。

また、全キャンパスリニューアルに伴う教育施設に係わる設備等(IT設備や最新設備・備品の設置、教具の更新など)の充実を図らねばなりません。

そのために学院教職員をはじめとして、数多くの卒業生及び卒業生の保護者、在学生、企業の皆様方からの支援をお願いしなければなりません。

つきましては、卒業生の皆様には、何かと社会情勢や経済状況の厳しい折とは存じますが、追手門学院大学の更なる発展の一助として、「一二〇周年、一万円募金」(金額にかかわらずありがたくお受けいたします)にご協力をくださいますようお願い申し上げます。

なお、万が一、すでにご寄付賜りました方にこのご依頼が届きました場合は、何卒失礼をご容赦ください。

最後になりましたが、皆様のますますのご健勝並びにご活躍をお祈り申し上げます。

謹白

二〇〇八年十二月吉日

学校法人 追手門学院

理事長 大木 令司

学院長 鈴木 多加史

校友会会長 平野 昌雄

恩師を訪ねて(4) キャンパスの思い出

岸 昌三



私は、一九六六年(昭和四一年)の本学創立以来、経済学部で教員として勤め、昨二〇〇七年三月、退職した。

本学は、現在工事中の場所にあつてすでに取り壊された旧の一号館でスタートし、年を追って二号館、三号館、四号館などの順に建設が進んだ。初期の頃、かの有名な評論家大宅壮一は、週刊誌の大学探訪のような記事で本学を「ホテル大学」と評したものである。まだ、ほかにいくばくも建物が建っていなかった頃のことである。一号館の内装を見てのことであろう。確かに当時の建築レベルから見ると、デラックスに映つ

たのであろう。私たちもそう思ったものである。

時を経て、近年になり、キャンパスの大改造が手がけられて、運動場・駐車場などが一新、さらにキャンパスの高台も一新して新館が聳え立ち、すでに動いている。かつて「ホテル大学」といわれた旧一号館も姿を消して、現在も工事が進行中である。

初期の頃は、スクールパスの到着するグラウンドのレールから、みんな將軍山の坂道を上って高台の校舎にたどり着いたものである。その頃のこと、登校してきた老教授が「將軍山を上れなくなると、やめなければならぬ」などと冗談を飛ばしていたことを思い出す。今では高台までエレベーター、エスカレーターが通じた。

思い起こせば、これまでも多少の間隔はあれ、創立以来、継続的に建設の槌音を聞いてきたものである。そうしたなかで学生は学園を巣立つて、すでに政界、業界、官公、教育、文壇、芸能、海外など各界で

活躍する卒業生の多きを聞くのは真に喜ばしい。

建設が進み、キャンパスが往年の自然を多少失ったのは、古きを知る者としては一抹のさびしさを禁じえない。しかしこれも時代の流れであり、しかも施設は確実に充実したのだから、教育・研究を充実させることで克服されてゆくものである。そうなることを願うものである。

活躍する校友(5)

株式会社 船井総合研究所
上席コンサルタント
執行役員

唐土 新市郎
(24期生)



私は十六年前に追手門学院大学を卒業しました。そして、新卒で船井総合研究所という経営コンサルティング

ング会社に入社しました。おかげさまで三十四歳のときに執行役員を拝命しました。

実は、この船井総合研究所に入社した縁は、追手門学院大学だったのです。大学二回生の頃、茨木図書館に行ったときのことです。ビジネス関係の書棚に近づいたとき、ある一冊の本が目飛び込んできました。ご存知の方も多いと思いますが、中村天風先生の「盛大な人生」という本でした。一万円ほどの高価な本ですが、ペラペラと興味を持ちつつ読んでいました。その本の巻末には、中村天風先生を支持している人の中に船井幸雄という船井総合研究所の創業者の名前があったのです。その他にも松下幸之助さんや稲盛和夫さんなどそうそうたる名前がありました。なぜか船井幸雄の名前だけが、これまた目に焼きついてしまったのです。

大学二回生のときにこの縁がなければ、今どんな仕事をしているのだろうか、とふと思えることがあ

りますが、今の経営コンサルティングという仕事を天職だと思いうくらい気に入っております。

これまで二千人以上の経営者に出会ってきました。本も十八冊ほど書いてきましたが、そろそろお世話になった人達に恩返しをする時期が来たかなと感じております。具体的には、無料で私の経営レポートをFAXで配信しております。もしご希望の方がおられればお気軽にお申し込みください。

FAX

06-6377-4279

kara@funaisoken.co.jp

経営コンサルティングという仕事を通じて、世の中に少しでも役に立つ人間になりたいと思う今日この頃です。

最後になりましたが、追手門学院大学というご縁をいただいたことにとても感謝します。そして、校友会の皆様におかれまして、益々のご活躍を心から念じております。

東京支部総会開く

新支部長に樋口氏を選出

諸井 美代子
(5期生)



んの開会の辞の後、東京支部の報告と今年度からの新東京支部長をお引き受け下さる樋口さんの御挨拶がありました。

平成二十年十一月八日(土)、お茶ノ水にあります「銀座アスターお茶の水賽館」にて東京支部総会と懇親会が数年ぶりに開催されました。

大阪から会長はじめ五名の来賓の方々を迎え、東京在住の十四名が集い総勢十九名で午後一時よりの開催となりました。
同現東京支部長の口村さ



その後、ご来賓の挨拶と致しまして常務理事の中嶋先生より頂戴し、その中で前日の十一月七日(金)に行われました大阪城ホールでの追手門学院一二〇周年の式典の模様とホームカミング・デーのご説明が有り又、現在の校友会会員の総数四万人強居ります事、その中で把握しております事、関東在住者の数が約三〇〇名



程ということなど詳しくお話を伺うことができませんでした。

ご来賓の平木社会学部長によります今後の大阪本部と東京支部の更なる活発をめざすお言葉で皆で乾杯を致しました。

乾杯の後、食事と歓談の時間となりその間に中嶋先生より産経新聞に載りました追手門学院一二〇周年の式典の記事のコピーを全員で戴き母校の長い歴史、それと共に母校より著名な卒業生が巣立っていることにあらためて皆感動致しました。

暫くしましてからお食事中に各出席者の自己紹介となり、その後は皆席を離れそれぞれに各人で親しく話に花をさかせておりました。中には十六期離れた先輩、後輩の間柄で同じ会社に住らっしゃる方々も御参加されておられました。皆さんそれぞれ立派な会社に入られ、ご活躍されておられるのは本当に喜ばしいことです。

年代を越えて同じ学び舎で学んだ者同士、相通じる物を感じながら話がつきないまま閉会の時は近づき、学院歌斉唱、出席者全員の集合写真撮影と続き、平野会長の閉会の辞となりました。閉会の一本締めの後、最後に樋口新東京支部長の今後の校友会東京支部の益々の発展をめざしてのお言葉

を頂戴し、又の再開を皆で楽しみに今年度の東京支部総会と懇親会を終えました。
帰り際に大阪からお持ち頂いた各出席者へ追手門学院大学のご本や資料等を頂戴致しました。大変楽しく充実した二時間半の総会と懇親会となりました。



ソキウス 第三回総会が開催されました！

社会学部支援同窓会
ソキウスの第三回総会
並びに懇親会が、さ
る十一月三日(月祝)
十三時三十分頃より、
母校食堂棟三階、ス
タッフルームで開催さ
れました。

十二時から、開催された
ホームカミング・デーの
パーティ終了後、場所を食
堂棟の三階へ移し、総勢
二十六名の参加で、第三回
総会が開催されました。

今年度の総会では昨年度
の活動報告と決算承認、来
年度の事業計画と予算案、
そして役員改選に伴い、新
役員が選出されました。

新野会長の挨拶の後、議
事進行し、総会の終了後、
追手門学院八十周年記念の
ビデオと大学案内最新ビデ
オで、母校の昔と今の変遷
を確認しました。その後、
参加者全員で今年九月に竣

工した校友会館である將軍
山会館を見学させて頂き、

一二〇周年記念事業ご担当
の宮本さんのご説明で懐か
しい制服や、展示品、開学
当時の写真などをみて、し
ばし学生時代の楽しかった
場面を思い起こし、癒しの
ひと時をすごさせて頂いた
きました。

全員で二次会も企画して
いましたが、参加者が少な
かったこともあり、今回は
残念ながら校友会館の見学
で解散ということになりま
した。ベ野新会長は、楽し

いソキウスにしたいと言わ
れています。新年度の活動
には、今年卒業された皆さ
んも含め、一人でも多くの
方に参加いただきたいと思
っていますので、よろしく
お願いいたします。

会長のコメント

この度、ソキウスの第二
代会長に就任いたしました
ベ野洋司です。

「新野前会長の業績を踏
襲しつつ、楽しいソキウス
を創りたいと思
います。皆様
のご支援とご協力
をいただきます
様よろしくお願
いいたします。」

新役員

会長	ベ野 洋司 (6期生)
副会長	吉田 浩幸 (6期生)
副会長	藻川 芳彦 (8期生)
会計監査	青木 敬 (8期生)
会計監査	野出 容子 (14期生)
幹事長	林田 隆行 (2期生)

日々発信しているソキウスブログもぜひご覧下さい。
http://space.geocities.yahoo.co.jp/gl/socius_ogu2006

心理学科同窓会

二〇〇八を開催しました

心理学科では今年度も、
十一月三日(月)のホーム
カミング・デーの催しに引
き続く形で、心理学科の同
窓会を開催しました。今回
は一期生はじめ五四名の卒
業生と小花和昭介名誉教授
が参加して下さいました。
そこに学科教員十三名が加
わり、楽しいひとときを過
ごすことができました。

まず、井上学部長の挨拶
に始まり、各教員の自己紹介
と近況報告を行った後、最
近のキャンパスの変化を紹
介し、さらに色々なゼミの
同窓生代表に近況報告をい
ただきました。

この同窓会もこれで三回
目となり、当初はとにかく
始めることに主眼を置いて
行ってきましたが、より充
実したものにするためにも
そろそろ改善を加えるべき
時期にさしかかっていると
思われます。今回の参加者
からもご意見をいただい
ておりますが、まず参加を呼
びかける範囲の拡充を図ら
ねばなりません。また、い



ままでは勤務歴が長く、昔
の同窓生とも顔なじみの教
師が中心に準備をしていま
すが、昔からの教師はだん
だん減っていく運命にあり
ますから、企画の中心をよ
り若い世代の教師に引き継
いでいく必要があります。
これは、単に事務を引き継
ぐだけではなく、同窓生と
いう繋がりを引き継がねば
ならないことです。時
間をかけておこなわざるを
得ないことでありましよう。
課題は小さくありません
が、將軍山会館という場所
もできあがったことであり
ますし、学科としては同窓
生の繋がりをさらに強めて
いきたい
と考えて
おります。
卒業生の
方々から
のご意見
ご助言が
あれば是非
お寄せ
いただき
たいと思
っています。

一二〇周年記念行事の 報告と今後の予定

創立一二〇周年記念事業の建設関係では、幼稚園建替、両中・高建替、大学中央棟・六号館・將軍山会館などの新築や建物の改修が既に行われ、残すところ小学校西館建設が二〇〇九年一月に竣工、大学では一号館が二〇〇九年夏に竣工予定となっています。

また、今年度の記念行事関係では、最大のイベントである創立一二〇周年記念式典が大阪城ホールで開催され、六三〇〇名の関係者を迎えました。滞りなく終わることができました。

また、「オール追手門展」が毎日新聞社大阪本社のオールホールで七月一八日〜二〇日の三日間開催され、約千名の参加者がありました。天神祭りの船渡御には、第五回「学院奉拝船」が出船し、学院創立一二〇周年を祝う仕掛け花火が大川にあげられました。大阪

城プロジェクトでは、養老猛氏の講演会・シンポジウムや朝日新聞社内のアサコムホールで写真展が開催されました。出版物では「追手門学院の履歴書」(企業人編)、「大阪城ネイチャーウォッチング」、大阪城プロジェクト調査報告書などが発行されました。

今後といたしましては、小学校西館と大学1号館の竣工式と完成披露祝賀会が予定されています。また、十一月七日に開催された創立一二〇周年式典の中継撮影の編集と学院内での上映会を予定しております。出版物では、創立一二〇周年記念事業の過去五年間の総括を報告書にまとめ発行する予定です。この報告書は、今後の周年事



業と学院の歴史として、永続記録するために必要なものと考えます。

これらの記念事業についても、卒業生のお力添え(ご芳志)とご協力があつてこそ成し得たものと思います。今後に付きましても、追手門学院・大学を卒業生が支えていた、だけの環境を多方向から学院が作り上げていくことが望まれ望むことと考えております。よろしくお願いいたします。

(二〇周年記念事業事務局)

受験を

希望される方に
願書を配付

二〇〇九年度の入試日程
は次の通りです。

卒業生のみなさまで受験期のお子さまのおありの方の願書請求をお待ちしております。

入試広報課

〇七二一六四二一九一六五

入試種別	学部 または 学科	出 願 期 間	試験日・ 書類審査日	合格発表日
一般A日程 (試験日自由選択制)	全学部	2009.1. 6(火)〜1.16(金)【郵送のみ】 2009.1.19(月)【本学窓口受付日】(午後3時まで)	2009.2. 5(木) 2009.2. 6(金)	2009.2.16(月)
一般S日程 (選択方式)	全学部	2009.1. 6(火)〜1.16(金)【郵送のみ】 2009.1.19(月)【本学窓口受付日】(午後3時まで)	2009.2. 7(土)	
一般S日程 (英・国方式)	全学部	2009.1. 6(火)〜1.16(金)【郵送のみ】 2009.1.19(月)【本学窓口受付日】(午後3時まで)	2009.2. 8(日)	
センター試験利用 A日程	全学部	2009.1. 6(火)〜1.16(金)【郵送のみ】	独自試験は課さない 2009.1.17(土) 2009.1.18(日)	2009.2.16(月)
一般B日程	全学部	2009.2.12(木)〜2.19(木)【郵送のみ】 2009.2.20(金)【本学窓口受付日】(午後3時まで)	2009.3. 4(水) 午前	2009.3.11(水)
論文B日程	全学部	2009.2.12(木)〜2.19(木)【郵送のみ】 2009.2.20(金)【本学窓口受付日】(午後3時まで)	2009.3. 4(水) 午後	2009.3.11(水)
センター試験利用 B日程	全学部	2009.2.12(木)〜2.19(木)【郵送のみ】	独自試験は課さない (センター試験利用 A日程欄参照)	2009.3.11(水)

追手門学院大学校友会の皆様へ

経営学研究科長 篠原 健

皆さんの実社会での、経営者やプロフェッショナルとしての経験や課題を、大学院で学び研究して論文にしてみませんか。課程を修了すれば、経営学修士や博士の学位を取得することが出来ます。社会的な信用度が増しますし、なにより学ぶことは楽しいものです。私の存じ上げている経営者の方で、リタイアされた後七十歳にして博士号を取得され、社会貢献に活躍されている方がおられます。

経営学研究科には前期課程(修士)と後期課程(博士)があります。在籍者数は四十二名です。現在、急ピッチで進められている大学改革の中で、大学院も社会のニーズに対応し追手門学院のブランド向上の一翼を担う強力なエンジンになりたいと思っています。社会の現実の知識や課題に基づいた、知の交流の場を作

り上げ、研究と教育の質をあげて社会に貢献したいと考えています。

社会人の方には、実社会での知識や課題に基づくテーマを持ち込んでいただきます。大学院担当の教員の専門領域とうまく合致すれば指導が可能になります。経営学研究科の先生は、学部と兼務ですが力になる範囲の広いのが特色です。経営学、会計学、法学、情報、起業、国際マーケティングなどの分野に加え、最近注目されているビジネス心理の分野での最先端の先生も加わりました。

現実の問題としては、社会人の専門家を受け入れるためのキャンパスの立地条件や、長期履修制度などの課題はありますが、物事を前に進める中で解決してゆきたいと思っています。

ご興味のあるかたは、気軽に相談ください。入試

広報課や、あるいは直接、教員もしくは研究科長の篠原宛にご連絡いただいても結構です。

(takshino@res.otemon.ac.jp)

*他にも大学院には経済学研究科経済学専攻、心理学研究科心理学専攻、文学研究科社会学専攻・中国文化専攻・英文学専攻が設置されています。

お詫びと訂正

前号六ページ「新役員候補者推薦のお願い」のなか一段目の最終行から二段目最初の間に欠落がありました。

お詫びして訂正いたします。なお、この欠落により本来の文意が変わる事はありませんでした。

正しくは『奉仕活動に、是非とも校友会会員の多くを各卒業期、学科、ゼミ、クラブ』でした。

「青が散る」Award

大学からも受賞

一二〇周年事業の一環として行なわれていた追手門学院第一回文章表現コンクール「青が散る」アワードの表彰式がこのほど行なわれ「短詩」の部で、優秀作品賞に経営学部一年の伊藤佑樹さん、審査員特別作品賞に社会学部一年の西本美香さん、佳作に卒業生の春名弥生さん、福山侑希さんが、また『作文・エッセイ』の部では優秀作品賞に経営学部四年の今谷建三さん、佳作には心理学部三年の高山直樹さん、文学部四年の岡本麻里さん、卒業生の春名弥生さんが受賞した。

このコンクールは大学一期生の芥川賞受賞作家の宮本輝氏にちなんで設けられたもので、今回の審査員には同じく卒業生作家の服部泰平氏も名を連ねている。

このコンクールは大学の教育研究所が主となって企画をしており、水藤所長は『非常に有意義だった。これから続けていきたい』と語っている。

編集後記

どうしよう。いやあ困った。三十行ほどが埋まらない。

長い長い編集後記でお許しを請おう。

会報の記事や写真は大学庶務課で集めていただき、段組み校正を一日でやっている。

記事の集まり具合により今回の様に足らずや余りがおきる。加筆や削除を繰り返して収める。これがまあ大変なのである。

ワープロはなぜだか好きになれない。

数本のHBと赤エンピツ、消しゴムに昭和三十八年から使っている国語辞典。この組合せがなんとも言えず気に入っている。

ワープロでは『無』になつてしまふ書き損じと消しゴムのカスを集めながら、悦に入っているひととき。

とてつもなく満足やね。

【潤】